

I. アジアの拠点都市を目指し福岡の活力を高める

第36回食品まつり「博多うまかもん市」 1/17-22

当所博多うまかもん市実行委員会(委員長＝中岡生公・㈱鈴懸代表取締役社長)は、福岡の地場食品を広くPRするイベント「食品まつり 博多うまかもん市」を岩田屋本店本館7階大催事場で開催。



前回は上回る63社が出店し、福岡の選りすぐりの食品や食材が多数並べられた。

また、昨年7月の九州北部豪雨の被害にあった朝倉市、筑前町、東峰村の日替わりお楽しみ袋や果物、野菜、加工食品などを各ブースで販売した。

6日間の期間中に、前年比約10%増となる約3万5千人が来場し、盛況であった。なかでも、ごぼう天うどんや博多皿うどんなどの復刻メニューや、パン屋と和菓子屋のコラボレーションメニューなどは連日長蛇の列が出来た。

II. 地域を支える商工会議所の持続・成長に向けた取り組み

福岡県プロフェッショナル人材戦略拠点セミナー 1/18

当所は、福岡県、福岡県プロフェッショナル人材センター、福岡県中小企業団体中央会と共催で、㈱モスフードサービスの



櫻田厚 代表取締役会長を講師に迎え「モスバーガー流、結果を出すために大切なこと」をテーマに講演会を開催。222名が参加した。

櫻田氏は講演で、「失敗の積み重ねが成長に繋がる」と、失敗と試行錯誤の繰り返しが今のモスを創ったと述べた。

また、「感謝される仕事をする」という理念を最も大事にしてきたことや、「人に感謝される仕事のできたのか、感謝される商品だったのか」というのが、モスの評価基準であること、モスで働く一人ひとりがこの理念を実践し、価値あるブランドとして周囲から支持・感謝・応援されることがモスのブランド戦略であると、独自の戦略や理念を語り、参加者は熱心に耳を傾けていた。

III. 信頼される福岡商工会議所(基盤の強化)

平成30年 新年祝賀会

1/5

改革する勇気をもって前へ進む、「改進」の年へ

当所は、平成30年新年祝賀会をホテルオークラ福岡で開催した。会員企業や地元政財官界から1,300名が参加し、新年の挨拶や今年の展望などが交わされ盛況となった。



磯山会頭は冒頭挨拶で、商工業者が直面している課題について、慢性化する人手不足や高齢化する経営者の後継者問題、技術革新による事業環境の変化、更なるグローバル展開、インバウンドの取り込み等を挙げ、こうした課題に対してワンストップでオールソリューションのサービスを提供していくことを宣言した。

さらに、社会経済の大きなうねりの中で、改革が必要とされるこの時代に、更に一步先を行く気概を持って「改進」していくと、今年の決意を述べた。



会 議 等

福商ビジネス倶楽部 1月例会

1/16

福商ビジネス倶楽部は、1月例会「福商ビジネス倶楽部 新年会 2018」をグランドパペチード(博多区)で開催し、87名が参加した。



当日は、人脈形成を促進するために昨年10月から11月に実施したメンバー同士の「相互訪問キャンペーン」の結果発表、及び表彰や、プレゼント抽選会などを行った。

また他団体との交流の一環として、福岡県商工会青年部連合会からも本例会に参加。

参加者からは「カジュアルな雰囲気でお話しやすく、色々な方と知り合うことができた」との声があった。